

自力でがんばる機会が必要

どんぐりころころに来ると、子どもたちは、自分の持ちものを自分で持って、のどが乾けば、リュックの中から自分で出して飲み、飲みます。

このようなことははじめから、当たり前のように自分でやってしまう子どもには、大人にやってもらうことが「当たり前」のような子どもいます。

どの子どもははじめは何か大人にやってもらわなくては生きていけない赤ちゃんですが、成長に伴って、自分で手足を動かして、自分でやることに喜びを感じるようになっていきます。

ですから、遊びもそうだし、生活に必要なこと、自分の力でやる機会を、大人がいかにつけてやるのが「大事な」と思っています。

- 子どもがその気になるよう、うまく仕向ける。
- 大人もじっと我慢して手伝わずに待つ。
- ちょっとだけ、一緒にやって、あとは手を引く。

等々、子どもが自力でがんばるための状況づくりの方法は、いろいろだと思えます。

自力を出すこと、自分でやることに喜びを感じ、そして、それが「当たり前」になっていくよう、大人も心して、関わるのが「大事な」と実感します。